

実体験からつながる「やる気」に

新型コロナウイルス感染症の非常事態宣言が解除されて早くも1か月が経ち、子ども達も少しずつ園生活に慣れたのか、友だちと一緒にいろいろな遊びを楽しんだり、周りの自然物に触ったりしながら楽しそうに過ごしています。今では検温や手洗い消毒も上手にできるようになりました。

さて、先日朝のテレビ番組で「アフターコロナの時代…小、中学校の授業どう変わる?」という番組の中で感染リスクの高い学習ということで、理科の実験は先生の実験を見るだけに、音楽では合唱や鍵盤ハーモニカ、リコーダーなどは中止で、授業は音楽を聴くだけ、体育の授業は子ども同士が近づかないように、チーム競技から個人競技に変更することが文部省通達に出ているそうです。

私自身の学校生活を思い出しても、これらの授業には楽しい思い出があり、見るだけ、聞くだけで実体験のない学習は、ずいぶん味気ないことになるのかなと、子ども達が可愛そうになりました。一日も早いコロナ感染症の収束が待たれるところです。

さて、先日の幼児組の子ども達が野菜の収穫をした時の事です。大きな葉の陰に隠れたきゅうりを探し、色や形の違いに注意しながら収穫をしようとした時、子ども達の中から「ちくちくする、これ持って来て。」とか「痛い!! 痛い!!」の声がありました。保育者が「どうしてちくちくするのかな…?」と尋ねると、少し考えてから年長児が「きゅうりが身を守るためよ。」と答えてくれました。

小学校に植えてある梅の収穫をさせて頂いた時でも、緑の大きな梅の実を収穫しようとしないうちがいました。なぜなのかわけを聞いてみると、緑色だから美味しくないのかと思っていたそうです。子ども達は教えられてなくてもきゅうりのとげの意味や、果物の収穫時期を色で判断する知恵を実体験を通して身につけているのだと感心したところです。

今年の4月からの小学校における学習方法に「主体的・対話的で深い学び」別名「アクティブラーニング」と言われる学習方法が全教科に取り入れられることになりました。「アクティブラーニング」は会話を通して仲間と力を合わせ、課題を見つけたり問題を解決する学習のことですが、この力の基礎は乳幼児期からの心を揺さぶられる経験や、興味・関心があることに積極的に関わって遊び込む中で、「もっと楽しみたい」という気持ちが基本になります。

子ども達は、自らが育とうとする力を持っています。大人が愛情を持ってかかわり、安心と信頼感をあたえ、その中でいろいろなことに取り組み挑戦し、失敗してもあきらめず粘り強く挑戦を繰り返す実体験が小学校の学習意欲につながります。

園では、自らが仲間と一緒に遊び、気づきや発見など様々な体験を通して「もっと知りたい」「もっと関わりたい」という思いを持ち、心も体も五感のすべてをフルに動かし探究できるあそびや環境、場所を用意して、子ども達の「やる気」を育ててゆくことにしています。

ご家庭でもお子さんの話をしっかり聞いてあげ、うなずき、はげまし、自分に自信が持てるようにしてあげてください。

7月初めには、年長児がお泊り保育に出かけます。コロナ感染症が心配される中、ご心配もあろうかと思われませんが、同封の理事長による園だよりをご覧ください。子ども達はきっと「やればできる」という自信を身につけて帰ってくるものと思っています。

主任



水あそびがはじまります!

夏一番の楽しみは、水あそびです。9日(木)はプール開きです。例年のように顔をつけたり、ダイナミックに泳ぐということはありませんが、水の心地よさを感じながら、思いっきり夏のあそびを楽しみたいと思います。感染症対策をしっかりと、安全面にも十分注意しながら楽しくすすめていきたいと思いますので、早寝、早起き、朝ごはんの習慣が身につくよう、ご家庭でもお願いしたいと思います。

- 水あそびや温水シャワーをしても良いかどうかを毎日忘れずチェック簿に記入して、お知らせください。
- 発熱・下痢・目やに・とびひなどお子さんの体調をよく見てご記入ください。



たなばたまつり

7月7日は七夕です。人日(正月)、上巳(桃の節句)、端午、七夕、重陽(菊の節句)は、昔から五節句といわれ、それぞれにちなんだお話や行事があります。

七夕は星まつりで、天の川をはさんで東西に位置するアルタイ星とベガ星をけん牛(ひこ星)、織姫(織姫星)と呼んでいます。この二人は仲が良すぎて仕事をしなくなったため、天の神の怒りに触れ、別れ別れになってしまったのです。しかし、それから二人は懸命に働き、一年に一度、7月7日カササギの橋の上で会うことが許されたと伝えられています。

「なるほど 行事ブック」参照



西日本豪雨災害 犠牲者追悼

平成30年7月豪雨災害から2年を迎えます。犠牲となられた皆様に追悼の意を表すると共に、これからも子ども達と一緒にこの地域でこの事が風化しないように、この出来事を継承していきたいと思えます。

七夕の笹は、毎年地域の方が子ども達の事を心配して下さり、声をかけてくださいます。今年は地域の方と一緒に保育者が取りに行きます。頑張ってください!!